

I. 生涯活躍のまち（CCRC）事例の概要

1. シェア金沢 ⇒ 多機能導入、多世代共生、地域に開かれた生涯活躍のまち事例

- 【事例概要】** ①シェア金沢は、金沢市郊外の11,000坪の敷地に、児童入所施設、サービス付き高齢者向け住宅、学生向け住宅、食堂、売店、テナント、温泉など多機能を導入した多世代共生の「まち」。
- ②戦後、戦災孤児を預かり、児童を養護するために設立した社会福祉法人佛子園が建設・運営。
- 【ポイント】** ①近隣住民や子供達が、入浴、食事、散歩、遊び場として気軽に立ち寄り、地域開放型の施設。
- ②入居者である高齢者・学生に、共同売店の出資と運営を義務付け。「まち」の運営を分担。
- ③学生向け住宅の賃料は月3万円と低額。その代わりに月30時間の子供見守り、高齢者の話し相手、レストランのレジ打ちチラシのデザイン等のボランティア活動を義務付け。

■施設概要

1. 所在地	・石川県金沢市若松町セ104番1
2. 運営事業者	・社会福祉法人佛子園（戦災孤児を預かる住職が児童養護施設運営のため1965年に設立）
3. 施設規模	・敷地面積：11,000坪（約36,000㎡） ・入居施設：・サービス付高齢者向け住宅：32戸（居室面積40.08㎡～43.74㎡） ・学生向け住宅：6戸、アトリエ付き学生向け住宅：2戸
4. 導入施設	・児童入所施設（障害特性、生活年齢等に応じた知的障害児の小規模ケア施設） ・産前・産後ケア金沢「子育て応援1、2、SUN」（不妊相談や育児相談等を実施） ・高齢者デイサービス、訪問介護 ・天然温泉（日帰り温泉施設、入居者と町内住民は無料、一般客は400円で利用） ・ニューももや（飲食店） ・ギャラリー（無料で開放している、地域との交流スペース。視察の説明会場） ・地域スポーツシステム研究所（スポーツ教室、障害児教育、フットサル事業を展開） ・NPO法人ガイア自然学校（自然体験を通じた心の教育。学童保育も担当。） ・日用品生活雑貨「若松共同売店」 ・ドッグラン（地域の住民が利用して交流が生まれるよう設置） ・アルパカ牧場（地域の子供たちが集まるよう設置）など
5. 入居要件	・60歳以上
6. 利用料金	非公開
7. サービス	・生活相談サービスの提供（事業者自らが提供、365日、24時間対応） ・食事の提供（事業者自らが提供、365日、厨房で調理） ・洗濯清掃等の家事サービスの提供（テナントとしてクリーニング店が入居） ・健康管理サービスの提供（職員が入居者の安否確認、デイサービスで血圧等を測定） ・ケアサポート（敷地内にデイサービス施設が入居）
8. アクティビティ	・入居者自らが料理教室などの趣味の講座を企画・運営している。敷地内に農地があり、野菜づくりなども実施。また、入居者は敷地内の天然温泉を無料で利用できる。

■入居者概要

1. 入居者数	非公開
2. 入居者属性	非公開
3. 入居者の生活	・日常生活：敷地内の共同売店のスタッフとして働くなど、仕事を分担して施設運営にも参加。様々な趣味のプログラムに参加。

■施設運営状況

1. 建設コスト	・用地確保：旧国立病院機構金沢若松病院跡地を取得 ・建設費：約17億円 ・テナント料：無料。ただし、特徴を生かしてシェア金沢の運営をサポートしている。
2. 従業員数	非公開
3. 連携状況	・医療介護：敷地内のデイサービス（通所介護）
4. その他	・PR方法：新聞折込広告を一度だけ実施。その他PR方法はホームページのみ。

（ホームページ、サービス付き高齢者向け住宅情報提供サービス、訪問ヒアリング等から作成）



2. わかたけの杜 ⇒ 地域包括ケアの拠点、近隣の高齢者を支える「サ高住」

【事例概要】 ①横浜市の郊外に立地する、66戸のサービス付き高齢者向け住宅。居室面積50㎡のゆとりある戸建てタイプを備えている。社会福祉法人若竹大寿会が建設・運営。

【ポイント】 ①夜間対応訪問介護、定期巡回随時対応型訪問介護の事業所、診療所が併設しており、介護や医療面が充実。夜間や緊急時もサポートする地域包括ケアの拠点。近隣の高齢者へもサービス提供。
②独立行政法人都市再生機構からの借地により、横浜市青葉区にありながらリーズナブルな賃料で良質なサービスを提供。公的機関が土地を提供することで、賃料の抑制を実現。

■施設概要

1. 所在地	・神奈川県横浜市青葉区奈良 4-6-12
2. 運営事業者	・社会福祉法人若竹大寿会
3. 施設規模	・敷地面積：47,000㎡（延床面積：3,788㎡） ・入居施設：戸数66戸（サービス付き高齢者向け住宅）
4. 導入施設	・食堂53㎡、図書ラウンジ48.78㎡、喫茶コーナー16.13㎡
5. 入居要件	・60歳以上
6. 利用料金	非公開
7. サービス	<ul style="list-style-type: none"> 生活相談サービスの提供（事業者自らがセンターハウスで提供、365日、24時間対応） 食事の提供（委託により株式会社レパトスが提供、365日、厨房で調理） 健康管理サービスの提供（事業者がセンターハウスで健康相談、血圧測定等を実施） ケアサポート（併設事業者） <ul style="list-style-type: none"> わかたけの杜訪問介護事業所（訪問介護、介護予防訪問介護） わかたけナイトケアステーション青葉（夜間対応訪問介護） わかたけ24ケアステーション青葉（定期巡回随時対応型訪問介護） メディカルサポート（併設事業者） <ul style="list-style-type: none"> サンメディカルクリニック青葉（在宅療養支援診療所） 在宅療養支援ステーション楓の風横浜青葉（訪問看護） 介護老人福祉施設わかたけ青葉 同社会福祉法人が運営するユニット型個室の特別養護老人ホームが隣接。わかたけの杜の入居者に対して、デイサービスやショートステイを提供 介護老人福祉施設リハリゾート青葉 同社会福祉法人が運営する介護老人保健施設が隣接。わかたけの杜の入居者に対して、デイケアサービス、ショートステイ、訪問リハビリを提供
8. アクティビティ	<ul style="list-style-type: none"> 送迎サービス 施設と駅・スーパーを往復する無料シャトルバスを1日4便運行、自由に生活

■入居者概要

1. 入居者数	非公開
2. 入居者属性	非公開

3. 入居者の生活	<ul style="list-style-type: none"> ・看取り：最後まで入居可能 隣接する特別養護老人ホームのショートステイで受け入れが可能。
-----------	---

■施設運営状況

1. 建設コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・用地確保：独立行政法人都市再生機構からの借地（事業コンペで採択） ・建設費：約12億円（建設単価：約100万円/坪）
2. 従業員数	非公開
3. 連携状況	・医療介護：敷地内に24時間対応の在宅療養支援診療所がテナントとして入居
4. その他	・PR方法：口コミでPR

（ホームページ、サービス付き高齢者向け住宅情報提供サービス、訪問インタビュー調査より作成）



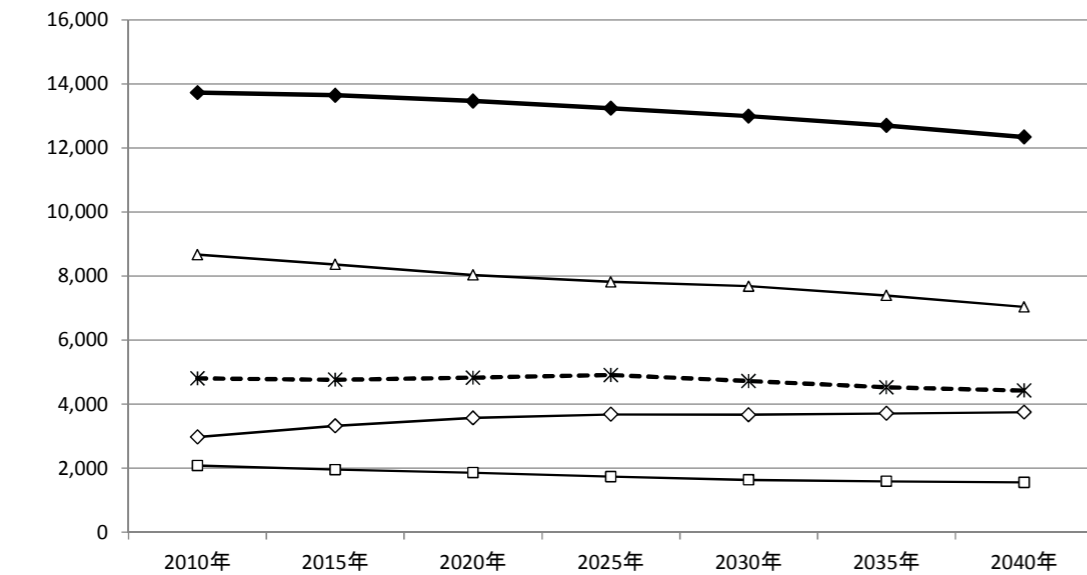
II. 聖籠町の概況（生涯活躍のまちに関する地域特性）

1. 聖籠町の将来人口 ⇒ 2040年にかけて総人口・シニア人口は減少

「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）によれば、聖籠町の総人口は、2015年の13,643人から2040年には12,338人に減少すると推計されている。（2015年比90.4%）

一方、聖籠町のシニア人口（50～79歳）は、2015年の4,764人から2025年には4,911人に増加し、その後2040年には4,426人に減少すると推計されている。（2015年比92.9%）

■聖籠町の将来人口の推移（単位：人、%）



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総人口	13,724	13,643	13,462	13,238	12,988	12,699	12,338
年少人口	2,082	1,957	1,860	1,739	1,637	1,592	1,556
生産年齢人口	8,667	8,364	8,031	7,819	7,682	7,395	7,035
老年人口	2,975	3,322	3,571	3,680	3,669	3,712	3,747
シニア人口(50～79歳)	4,803	4,764	4,825	4,911	4,721	4,527	4,426
年少人口構成比	15.2%	14.3%	13.8%	13.1%	12.6%	12.5%	12.6%
生産年齢人口構成比	63.2%	61.3%	59.7%	59.1%	59.1%	58.2%	57.0%
老年人口構成比	21.7%	24.3%	26.5%	27.8%	28.2%	29.2%	30.4%
シニア人口構成比	35.0%	34.9%	35.8%	37.1%	36.3%	35.6%	35.9%

出典：「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）

一方、東京圏のシニア人口は巨大な市場規模を維持し、新潟県のシニア人口は、下記のとおり減少していく。聖籠町の生涯活躍のまちのあり方を考える上で、東京圏の巨大なシニア市場の存在や、今後減少するが70万人の規模を保つ新潟県のシニア市場を念頭に置く必要がある。

【東京圏シニア人口ー巨大な市場規模を維持】

△2015年の1,292万人から2025年に1,401万人へと増加、2040年には1,381万人へ（2015年比106.9%）

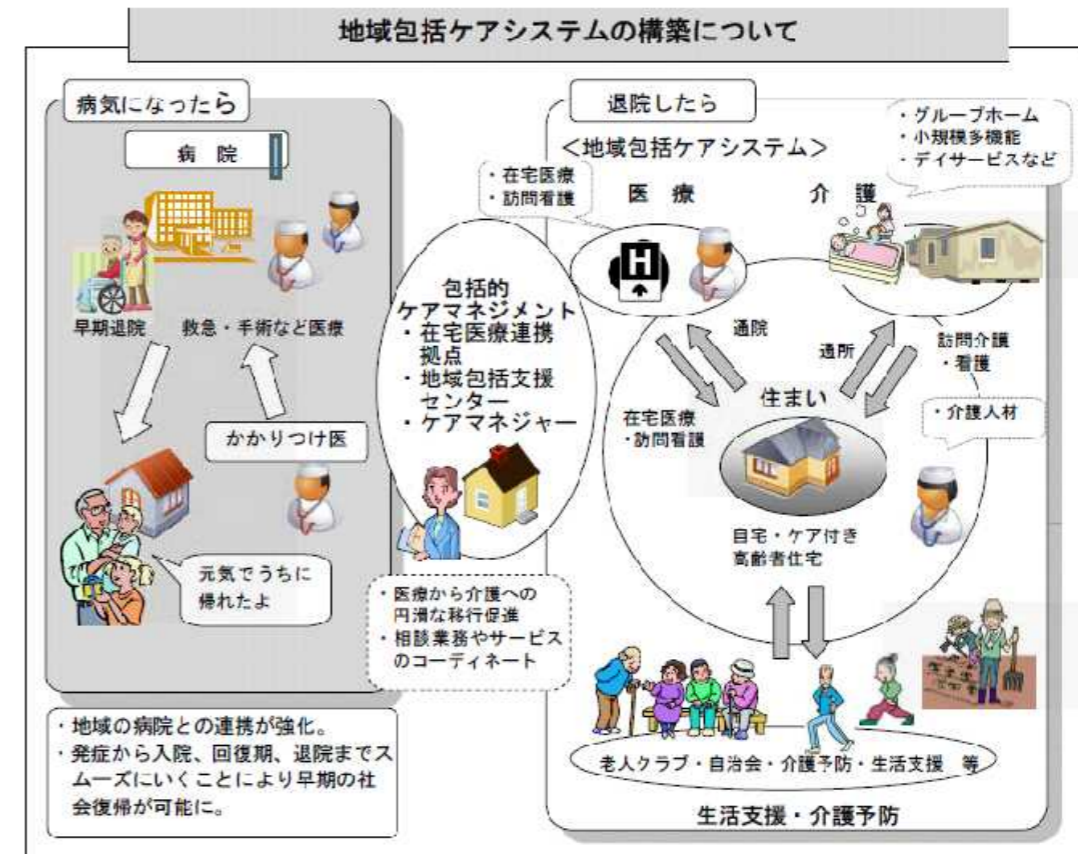
【新潟県シニア人口ー県全体の市場は8割に減少】

▼2015年の91.6万人から2040年には72.8万人に減少（2015年比79.5%）

2. 聖籠町の地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み ⇒ 施設が充実し基盤が整う

聖籠町高齢者福祉計画第6期介護保険事業計画（平成27年度～平成29年度）では、自宅やケア付き高齢者住宅に居住する高齢者に対して、医療、介護、生活支援・介護予防を提供し、地域包括ケアシステムを構築していく計画を立てている。

聖籠町の平成27年10月末時点の要介護認定者数は546人、認定率（第1号被保険者3,311人に占める割合）は16.5%、第6期の第1号保険料基準額（65歳以上）は6,400円/月である。



出典：聖籠町高齢者福祉計画第6期介護保険事業計画（平成27年度～平成29年度）

聖籠町では、平成28年9月に、内科、外科、整形外科、脳神経外科、眼科、リハビリテーション科を備えた新潟聖籠病院が開院し、今後、医療と介護のさらなる連携が期待されている。聖籠町では、地域包括ケアシステムの構築に向けた基盤が整いつつある。

3. 聖籠町の介護サービスの概況 ⇒ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護以外は基盤が整う

聖籠町のケアマネジメント体制、居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービスの概況は以下のとおり。なお、聖籠町には、定期巡回・随時対応型訪問介護看護やサービス付高齢者向け住宅はない状況である。

1) ケアマネジメント体制

①居宅介護支援（ケアマネジメント）

要介護の認定を受けた人々の心身の状況に応じて、適切なケアプランを作成するケアマネジャーを抱えた居宅介護支援事業所は、聖籠町には下表のとおり3事業所が開設されている。

1	聖籠町社会福祉協議会	聖籠町社会福祉協議会
2	在宅介護支援センター聖豊はすがた園	社会福祉法人豊聖福祉会
3	居宅介護支援事業所汐彩	社会福祉法人心友会

②介護予防支援事業所

介護予防支援事業所は、要支援と認定された人が要介護状態になることを回避するため、介護予防ケアマネジメントを行う。介護予防サービス計画の作成、介護予防を行う事業所と連絡・調整を実施する。町内には、聖籠町地域包括支援センターが設置されている。

1	聖籠町地域包括支援センター	聖籠町
---	---------------	-----

2) 居宅サービス

①訪問介護（ホームヘルプサービス）

要介護認定者の住まいへホームヘルパーを派遣する訪問介護事業所は、聖籠町には下表のとおり 2 事業所が開設されている。

1	聖籠町社会福祉協議会	聖籠町社会福祉協議会
2	ジャパンケア聖籠	株式会社ジャパンケアサービス

②通所介護（デイサービス）

要介護の認定を受けた人々を日帰りで受入れ、食事や入浴などの日常生活の支援や心身機能の維持向上を図る通所介護事業者は、聖籠町では下表のとおり 4 事業所が開設されている。

1	聖籠町デイサービスセンター	聖籠町社会福祉協議会	定員 23 人
2	アクティブデイはすがた	医療法人愛広会	定員 25 人
3	デイサービスセンター聖豊はすがた園	社会福祉法人豊聖福祉会	定員 30 人
4	デイサービス汐彩	社会福祉法人心友会	定員 16 人

③通所リハビリテーション（デイケア）

日帰りでリハビリを行い、身体機能の回復を目指す通所リハビリテーション施設は、聖籠町では下表のとおり 1 施設が開設されている。

1	汐彩の郷	社会福祉法人心友会	定員 20 人
---	------	-----------	---------

④短期入所生活介護（ショートステイ）

要介護の認定を受けた人々が短期間入所して、日常生活の支援や機能訓練を図る短期入所生活介護事業所は、聖籠町では下表のとおり 4 事業所が開設されている。

1	ショートステイ聖籠まごころの里	社会福祉法人真心福祉会	定員 20 人
2	聖豊はすがた園	社会福祉法人豊聖福祉会	定員 10 人
3	ショートステイ汐彩	社会福祉法人心友会	定員 38 人
4	聖籠まごころの里	社会福祉法人真心福祉会	定員 70 人

⑤訪問入浴介護

訪問入浴車が利用者の自宅を訪問し、自宅浴槽での入浴が困難な方に対して、介護職員や看護職員が入浴の介

護を行う事業所は、聖籠町では下表のとおり 1 事業所が開設されている。

1	聖籠町社会福祉協議会	聖籠町社会福祉協議会
---	------------	------------

⑥訪問看護

病気や障害を持つ人が自宅で療養できるよう、看護師等が利用者の自宅訪問し、看護ケアを提供する事業所は、聖籠町では下表のとおり 1 事業所が開設されている。

1	せいろう訪問看護ステーション	医療法人愛広会
---	----------------	---------

3) 施設サービス

①介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）は、常時介護が必要な人を受け入れ、日常生活上の支援、機能訓練、療養上の世話など行う施設である。聖籠町では下表のとおり 2 施設が開設されている。

1	特別養護老人ホーム聖籠まごころの里	社会福祉法人真心福祉会	定員 70 人
2	特別養護老人ホーム聖豊はすがた園	社会福祉法人豊聖福祉会	定員 50 人

②介護老人保健施設（老健）

介護老人保健施設は、在宅復帰を目指している人が入所し、自立に向けてリハビリテーション、必要な医療、介護を提供する施設である。聖籠町では下表のとおり 1 施設が開設されている。

1	介護老人保健施設 汐彩の郷	社会福祉法人心友会	定員 119 人
---	---------------	-----------	----------

③特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム）

都道府県知事から「特定施設入居者生活介護」の指定を受けた有料老人ホームは、聖籠町では下表のとおり 1 施設が開設されている。

1	ウェルハート加治川の里	株式会社加治川の里	80 人
---	-------------	-----------	------

4) 地域密着型サービス

①認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

認知症対応型共同生活介護事業所は、少人数の認知症利用者が、介護スタッフとともに共同生活を行う施設である。家庭的な環境のもとに、食事や入浴などの日常生活上の支援、機能訓練等のサービスが提供される。聖籠町では下表のとおり 1 施設が開設されている。

1	グループホームせいろう	社会福祉法人燦祥会	定員 15 人
---	-------------	-----------	---------

②小規模多機能型居宅住宅

要介護と認定された利用者に対して、施設への「通い」を中心に、施設での「宿泊」や自宅への「訪問」の 3 サービスを組合せて提供する小規模多機能型居宅介護の施設は、聖籠町では下表のとおり 1 施設が開設されている。

1	小規模多機能ホーム聖籠まごころの里	社会福祉法人真心福祉会	登録定員 2 人
---	-------------------	-------------	----------

Ⅲ. アンケート調査結果

1. 新潟東港地区従事者に対するアンケート調査結果

移住希望者へのアンケート調査に先立ち、聖籠町が有する魅力や、在職中／退職後に生活をするうえでの課題・問題点等を明らかにするために、新潟東港地区の従事者（20歳代～50歳代）120人に対してアンケート調査を行い、37件のアンケートを回収した。その結果、特に聖籠町への居住・移住を希望する人においては、通勤の利便性や経済面のメリットの他に、自然環境に恵まれていること、健康維持を送るうえで適地であることを聖籠町のメリットとして捉えていることがうかがえた。また、教育・子育てに係る支援制度の充実を魅力としてあげる声も多く、聖籠町が高齢者に限らず、若年世帯に対する訴求力を有していることもうかがえた。

新潟東港地区従事者に対するアンケート概要（一部抜粋）

設問	回答件数	傾向
（聖籠町への居住・移住を希望する人23名に対する個別設問）		
居住・移住を希望する理由		
1. 自分（または配偶者の生まれ育った地域だから	0	居住・移住を希望する理由は、東港地区の勤務先への通勤利便性のほか、社宅の利用や生活費の抑制など、主に経済面のメリットを上げる人が多い。また、自然環境に恵まれていることも大きな魅力として捉えられている。
2. 親族等の介護をしたい/する必要があるから	0	
3. 家業、資産等を継ぎたい/継ぐ必要があるから	0	
4. 自然環境に恵まれた地域だから	7	
5. 観光資源に恵まれた地域だから	1	
6. 診療所や病院が充実した地域だから	0	
7. 保育所や保育サービスが充実した地域だから	0	
8. 教育施設や教育内容が充実した地域だから	1	
9. スポーツ施設やスポーツ指導が充実した地域だから	1	
10. 商業施設が充実した地域だから	0	
11. 公共交通が充実した地域だから	0	
12. 生活費を抑えることができる地域だから	4	
13. 職場があり、通勤時間が短くて済むから	17	
14. 社宅や会社の借上げ住宅があるから	14	
15. その他	3	
聖籠町に居住する際の生活スタイル		
1. 家族との時間を大切にしたい	6	居住・移住を希望する人の聖籠町における生活スタイルとして、健康維持を上げるものが半数以上となり、健康的な生活を送るうえで聖籠町が適地と捉えられている。
2. 菜園などで野菜や米づくりを楽しみたい	1	
3. 仕事と子育てを両立させたい	5	
4. 近隣住民と関わり、地域に溶け込んだ生活をしたい	1	
5. ボランティア等で地域に貢献したい	0	
6. 自身の健康維持につとめたい	14	
7. スローライフをおくりたい	2	
8. 趣味やレジャー・観光を楽しみたい	11	
9. スポーツを楽しみたい	9	
10. その他	1	

2. 移住希望者アンケート調査結果

①調査概要

総務省の「住民基本台帳人口移動報告」に基づき、過去聖籠町への転入者数が特に多い新潟県、並びに東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県（以上、「東京圏」）に在住で移住に関心のある人計1,000人を対象に、地方への移住に対する志向や聖籠町への移住意志等を問うインターネットアンケート調査を実施した。

調査対象者

新潟県在住者				東京圏在住者			
移住に関心のある人（聖籠町除く）500人				移住に関心のある人500人			
	男性	女性	合計		男性	女性	合計
20歳代	43	57	100	20歳代	50	50	100
30歳代	50	50	100	30歳代	50	50	100
40歳代	50	50	100	40歳代	50	50	100
50歳代	52	65	117	50歳代	50	50	100
60歳代以上	63	20	83	60歳代以上	50	50	100

②調査結果

移住希望者へのアンケート調査の結果、新潟県／東京圏在住者共通の事象として、「若い年齢層ほど移住の可能性が高い」のに加え、特に聖籠町を移住候補地とする人は、「自然、医療環境、地域包括ケアシステムを重視する」、「聖籠町を「終の棲家」と見なす」、「高齢者向け住宅を期待」する傾向にあることがうかがえた。

一方で、聖籠町を移住候補地とする人の年齢層を比較すると、新潟県在住者は「60歳代以上」の高い年齢層が、東京圏在住者は「20～30歳代」と若い年齢層が多く、居住地によって異なる傾向が見られた。

移住希望者へのアンケート調査結果

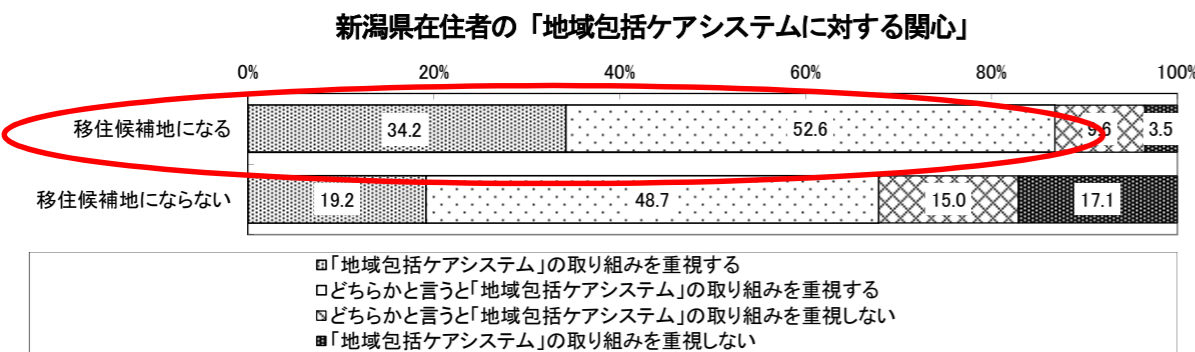
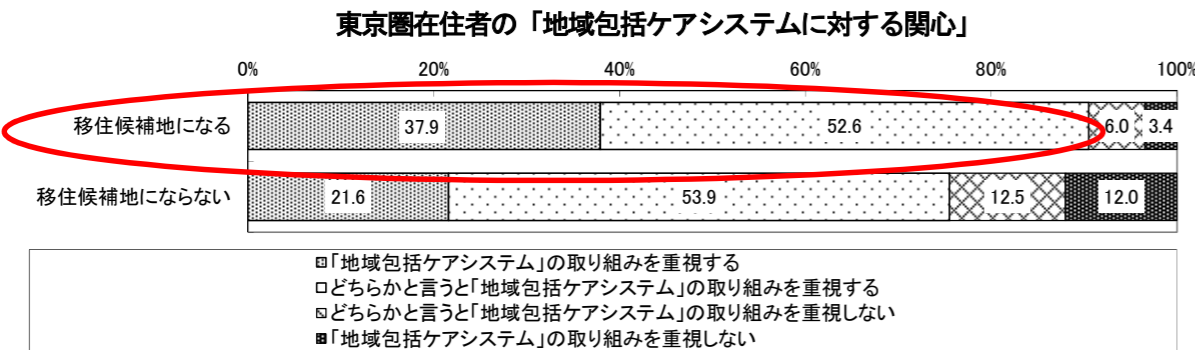
	新潟県在住者	東京圏在住者
移住への関心度合	若い年齢層ほど移住の可能性が高い <ul style="list-style-type: none"> 新潟県在住者の中で、「移住を具体的に考えている」、「移住に関心があり、すぐに実施したい」の両者を合わせた割合は1割を超える。 上記の移住の可能性の高い層の割合は、「20～30歳代」の若い年齢層が高く約2割。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京圏在住者の中で、「移住を具体的に考えている」、「移住に関心があり、すぐに実施したい」の両者を合わせた割合は1割を超える。 上記の移住の可能性の高い層の割合は、「20～30歳代」の若い年齢層において高く約14%。
移住先に期待する地域特性	聖籠町を移住候補地とする人は、自然、医療環境を重視 <ul style="list-style-type: none"> 聖籠町が移住候補地になると回答した人は、移住先の地域特性として、「自然環境の恵まれた地域であること」が45.6%と最も割合が高く、次いで「診療所や病院が充実した地域であること」が31.6%と、自然、医療環境を重視している。 	<ul style="list-style-type: none"> 聖籠町が移住候補地になると回答した人は、移住先の地域特性として、「自然環境に恵まれた地域であること」が65.5%と最も割合が高く、次いで「診療所や病院が充実した地域であること」が37.1%と、自然、医療環境を重視している。
移住先の高齢化対策	聖籠町を移住候補地とする人は、地域包括ケアシステムを重視 <ul style="list-style-type: none"> 聖籠町が移住候補地になると回答した人では、移住先の取り組みとして、「（どちらかと言うと）「地域包括ケアシステム」の取り組みを重視する」割合は約9割。 	<ul style="list-style-type: none"> 聖籠町が移住候補地になると回答した人では、移住先の取り組みとして、「（どちらかと言うと）「地域包括ケアシステム」の取り組みを重視する」割合は約9割。
聖籠町の移住候補地の可能性	聖籠町を移住候補地とする人は、年齢層が高い傾向 <ul style="list-style-type: none"> 聖籠町が「移住の候補地になる」と回答した人は、「60歳代以上」の割合が高い。 	聖籠町を移住候補地とする人は、年齢層が若い傾向 <ul style="list-style-type: none"> 聖籠町が「移住の候補地になる」と回答した人は、「20～30歳代」の割合が高い。
移住先の住まいの性格	聖籠町を移住候補地とする人は、移住先を「終の棲家」と見なす <ul style="list-style-type: none"> 聖籠町が「移住の候補地となる」と回答した人は、「「終の棲家」になる」割合が高く約5割。 	<ul style="list-style-type: none"> 聖籠町が「移住の候補地になる」と回答した人は、「「終の棲家」になる」割合が高く約4割。
高齢者向け住宅へのニーズ	聖籠町を移住候補地とする人は、高齢者向け住宅を期待 <ul style="list-style-type: none"> 聖籠町が「移住の候補地になる」と回答した人は、サービス付き高齢者向け住宅が整備された場合、「移住先の候補地としての可能性は高まる」割合が高く約5割。 	<ul style="list-style-type: none"> 聖籠町が「移住の候補地になる」と回答した人は、サービス付き高齢者向け住宅が整備された場合、「移住先の候補地としての可能性は高まる」割合が高く約5割。
聖籠町が移住候補地にならない理由	不便さ、地縁、情報不足などが移住候補地への選択を阻害 <ul style="list-style-type: none"> 移住先として聖籠町が候補地にならない理由は、「公共交通が不便であるため」が37.3%、次いで「地縁がないため」が26.4%、「買物が不便であるため」が25.6%、「情報が乏しいため」が23.3%。 	気候条件、情報不足などが移住候補地への選択を阻害 <ul style="list-style-type: none"> 移住先として聖籠町が候補地にならない理由は、「気候が合わないため」が34.9%、次いで「情報が乏しいため」が34.4%、「地縁がないため」が31.3%。

IV. 聖籠町版生涯活躍のまちの方向性

1. 基本コンセプト ⇒ 「地域包括ケアシステム」を中心とした生涯活躍のまち

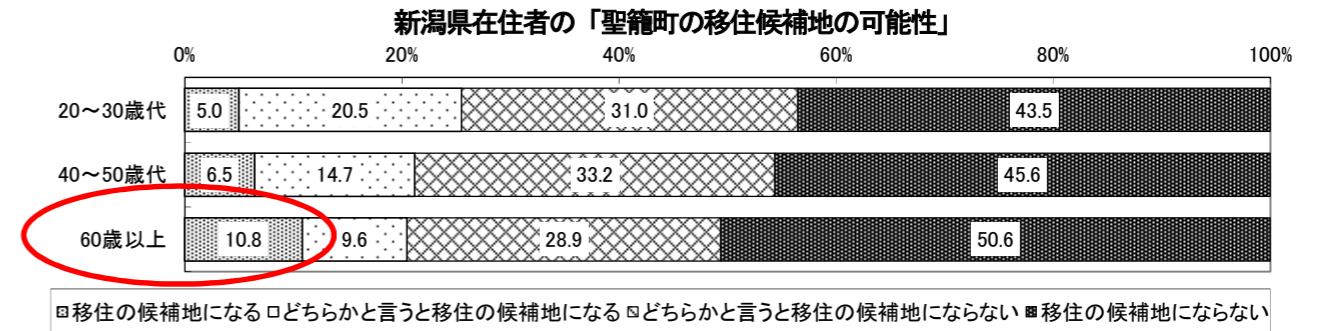
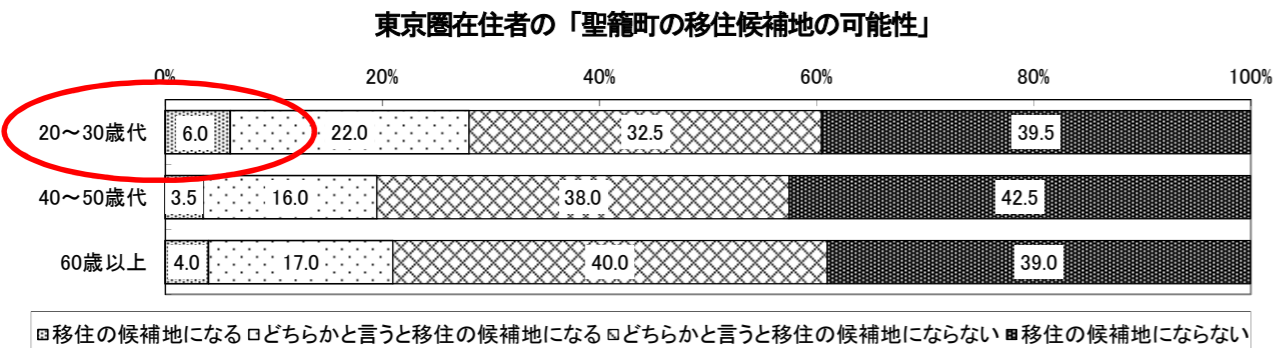
聖籠町には、各種の介護事業所や施設が立地している。今年9月には新潟聖籠病院が開院し、地域包括ケアシステムを構築する上での基盤が整いつつある。こうした地域特性に加えて、聖籠町が移住候補地になると回答した人（「どちらかと言うと移住候補地になる」も含む）は、移住先での「地域包括ケアシステム」の取り組みを重視する割合が高いというアンケート調査結果が得られた。

介護関連施設が充実している地域特性、移住検討者の地域包括ケアシステム重視の姿勢を踏まえ、町内外の高齢者が安心できるまちづくり（地域包括ケアシステムの構築）を基本コンセプトに据えて、聖籠町の生涯活躍のまちを考えることができるのではないかと。



2. 生涯活躍のまちの「ターゲット」 ⇒ 高齢者と若者の「多世代共生」

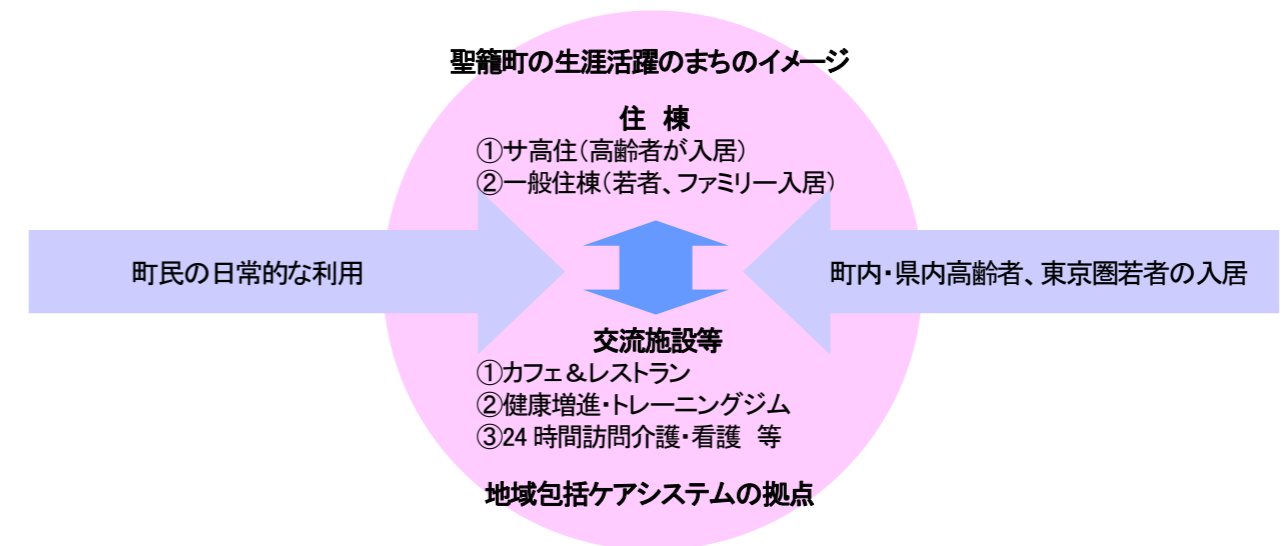
東京圏在住者では「20～30歳代」が、新潟県在住者では「60歳以上」が「移住候補地になる」割合が他年代に比べて高かった。こうしたアンケート調査結果を踏まえると、東京圏では若い世代を、新潟県では高齢者を「ターゲット」にできるのではないかと。高齢者と若者が共生する生涯活躍のまちが考えられるのではないかと。



3. 生涯活躍のまちの「導入機能」 ⇒ 交流施設を導入し、地域に開かれた「まち」へ

先進事例「シェア金沢」では、高齢者向け住宅、障害児入所施設、学生住宅だけではなく、レストラン、カフェ&バー、天然温泉、売店、アルパカ牧場、ドッグランなど、近隣住民も利用できる施設が導入されている。その結果、高齢者や障害者の住まいでありながら、近隣住民の交流拠点となり、活気のあるまちが形成されている。

聖籠町の生涯活躍のまちも、町民の利用を重視すべきではないかと。町民も入居者も利用できる、飲食、健康増進、介護等の機能を導入して、まちの交流拠点にすることは望ましいのではないかと。町民が気軽に立ち寄ることができる、地域に開かれた「まち」にすべきではないかと。



4. 生涯活躍のまちの「事業主体」 ⇒ 行政の支援による民間事業者の参入促進

生涯活躍のまちの先進事例では、社会福祉法人や株式会社が事業主体となっている。民間事業者が、充実した施設やサービスを、利用しやすい価格で提供するためには、聖籠町の支援も検討すべきではないかと。生涯活躍のまちづくりに、民間事業者が参入しやすくなる仕組みを考えるべきではないかと。

横浜市郊外に立地する「わかたけの杜」は、都市再生機構が低額で提供した土地に、横浜市が事業コンペを行って事業主体を選定している。その結果、質の高い居住空間とサービスが提供されている。定期巡回・随時対応型訪問介護看護、在宅療養支援診療所がテナントとして開業し、入居者だけではなく、周辺地域の高齢者に対してもケアを提供して、地域包括ケアシステムの拠点を形成している。聖籠町でも、用地は低額で提供するなどして民間事業者の負担を軽減し、ゆとりある空間づくりやサービスの充実を促すべきではないかと。

V. 聖籠町版生涯活躍のまちのメリット・デメリット

1. メリット① 町民（高齢者）に対する安心感の提供

生涯活躍のまちの中に、24時間対応の定期巡回随時対応型訪問介護看護の事業所を誘致することで、町内の高齢者が安心して暮らすことができる地域包括ケアシステムが実現することになる。町内の高齢者が要介護状態になったとしても、在宅で暮らせる可能性が高まることになる。

2. メリット② 町民（高齢者）の介護予防の充実（要介護認定率や介護保険料の上昇抑制）

生涯活躍のまちの中に、健康教室や介護予防に向けたトレーニングの場を設けることで、町民と入居者に対して健康維持を促すことができる。高齢者に対して、適切な指導を行うことで、要介護状態になることを防ぎ、要介護認定率や介護保険料の上昇を抑制できる可能性がある。

3. メリット③ 町民の新たな交流拠点の創出

生涯活躍のまちの先進事例では、入居者に対する食堂や文化活動などのスペースが確保されている。こうした施設を、町民と入居者の両者が利用できる交流施設とすることや、町民が気軽に立ち寄れる交流機能を加えることで、生涯活躍のまちは、新たな交流拠点となることが期待できる。

4. メリット④ 定住人口の維持（行政サービスや生活関連サービスの維持）

地域包括ケアシステムが整い、高齢者が安心して暮らせるまちになることで、新潟県内などから高齢者や高齢者を抱えた世帯の転入が増える可能性がある。その結果、聖籠町の人口は、現状に近い水準を維持していくことが期待できる。新潟県内では、今後人口が減少し、現在の行政サービスが維持できなくなる可能性がある。その中で、聖籠町では定住人口が維持され、一定の税収や商圏人口が確保されることになる。現状の行政サービスや生活関連サービスを将来にわたり保てる可能性がある。

5. メリット⑤ 若者の転入促進（地域の活力の維持）

生涯活躍のまちの中に、若者向けの住宅を用意し、入居しやすい賃料で提供することができれば若者やファミリー層の転入が期待できる。「シェア金沢」では、学生向けの住宅を用意し、一定時間のボランティア活動を課す代わりに、安い賃料で学生を入居させている。町外から転入する若者やファミリー層に、割安な賃料を提示することで、若い世代の転入を促し、地域の活力を維持することができる。

6. メリット⑥ 転入者の消費や施設建設等に伴う経済効果

1) 消費効果

平成26年全国消費実態調査によれば、単身者の消費支出額は、約15～20万円/月である。仮に15万円/月が町内で支出されると仮定すると、年間180万円の消費支出となる。町外から60人の単身の転入者がある場合、年間1億800万円の消費が期待できる。

2) 建設効果

先進事例「オークフィールド八幡平」の建設費は、70万円/坪である。また、建設会社によれば、高齢者向けの集合住宅の建設費は、90万円～120万円/坪とのことである。例えば、延床面積5,000㎡（1戸当たり延床面

積40㎡×100戸、共用施設面積1,000㎡）の建設規模で、坪単価90万円のサービス付き高齢者向け住宅を建設した場合、建物部分の建設費は約13.6億円となる。

3) 雇用創出効果

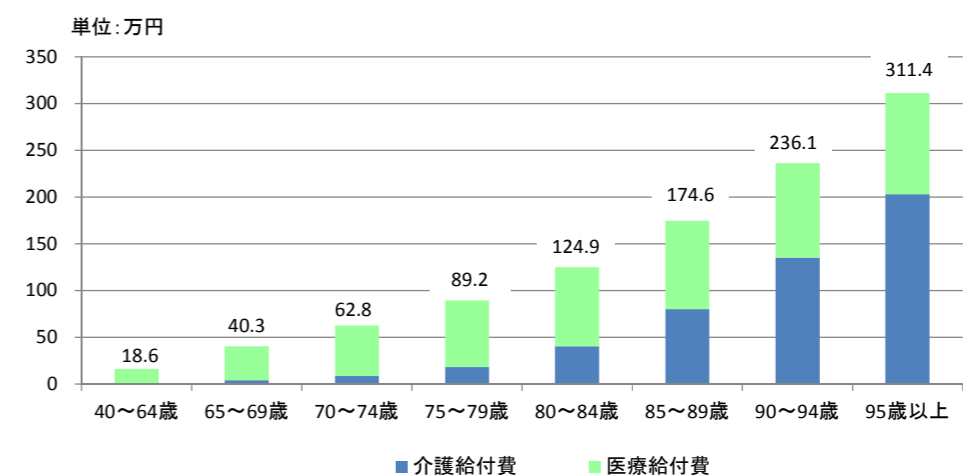
「ゆいまー那須」では、70戸に対して、施設運営スタッフはハウス長を含めて●名である。ただし、送迎バスのドライバー●名を除くと、実質的には●名で運営している。100戸の生涯活躍のまちを想定した場合、8～9名程度の運営スタッフが必要になり、雇用機会が生まれることになる。

4) 税収効果

聖籠町が平成28年度当初賦課に用いた町民所得データによれば、1人当たりの市町村民税額（町税分：課税所得×6%+3,500円）は年額約15万円/人である。この市町村民税額を使用した場合、町外からの転入者が60名増えれば、年間約900万円の増収となる。

7. デメリット① 加齢に伴う、医療・介護給付費の上昇

入居時は健康であっても、加齢とともに医療や介護が必要になり給付費は増加していく。医療給付費と介護給付費の合計額は、40～64歳であれば年間18.6万円であるが、加齢とともに上昇し、80～84歳では年間125万円、90～94歳では年間236万円と増加する。平均寿命は、男性80.5歳、女性86.8歳であることから、健康寿命を伸ばさない限り、転入者の加齢に伴う給付負担は増す可能性がある。



なお、介護保険については、特定施設（サ高住、有料老人ホーム等）や介保保険施設に入所する人は、入所時点では自立者であっても前住所地の被保険者扱いとなる「住所地特例」が活用できる。このため、この特例を活用すれば、聖籠町の介護保険に対する影響（負担増）を回避することができる。

8. デメリット② 基盤整備や交流施設の整備に伴う財政負担

生涯活躍のまちの用地取得や基盤整備を町が担う場合、財政負担が生じる。また、生涯活躍のまちの施設整備と運営は民間事業者が担うことになるが、町民も利用する交流施設の整備費は聖籠町が担う可能性がある。

9. デメリット③ 医療・介護人材確保への支援の必要性

平成28年9月に新潟聖籠病院が開院した。今後生涯活躍のまちが実現して高齢者が増加し、24時間訪問介護・訪問看護などが実施されると、現状でも不足している医療・介護人材の確保がさらに困難になる可能性がある。医療・介護人材の確保や育成に関して、町の支援が必要になる可能性もある。